



AMUSE



旭川医科大学外科学講座教育支援機構



AMUSE年報 vol.7

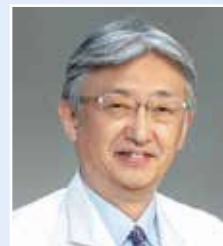
CONTENT

AMUSE理事挨拶	1
2022年度 AMUSE運営体制	8
2021年度 収支決算報告	9
2022年度 AMUSE事業報告・一覧	10
AMUSE 2022年度を振り返って	11
2022年度 メディア掲載一覧	13
AMUSE 初期・後期研修医一覧	15
AMUSE 学術外科医表彰プログラム	16
AMUSE 第4回外科学講座合同研究討議会	17
学生と指導医による学会参加について	19
法人会員紹介	21
2022年度 AMUSE 新入会員一覧	23
編集後記	

異文化との交流：自分の殻をぶち破れ!!

旭川医科大学 外科学講座教育支援機構 一般社団法人AMUSE 代表理事
旭川医科大学 外科学講座血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野 教授

東 信 良



この度3月23日から25日の3日間、第53回日本心臓血管外科学会学術総会を開催させていただきました。その際には、教室員・教室関係者は勿論ですが、心臓外科の皆様をはじめ、AMUSEの皆様には絶大なるご支援とご尽力をいただき、加えて留守中の旭川医大病院を守っていただきまして、誠にありがとうございました。

学会テーマをMissions for the Next Stageとさせていただき、働き方改革や循環器病対策基本法、専門医制度改革などの大きな変化の時代を生き抜き、発展してゆくためのミッションを多く取り上げ、ディスカッションしていただきました。

実は、裏テーマとして「異文化との交流」を掲げ、18名の海外からの講演者をお呼びしたことです。実際に15名が旭川に来てくださいました（半数以上を占める心臓外科医の招聘は紙谷教授のご尽力によるものです）。3月の末は、旭川は観光オフシーズンであり、気候も不安定で、ペンギンのお散歩もすでに終わっている時期ということで、そうであれば、多くの海外のスーパースターをお呼びして、その方々に接していただくことを裏テーマにしようと考えたわけです。

その背景には、我々日本人の内向き志向が、このコロナ禍でさらに強まっていることに危機感を抱いてきたからであります。よく聞く話として「別に海外に行かなくても最先端の情報は手に入るし、最先端の研究も国内でだってできるし」とか「燃料サーチャージが跳ね上がり、欧米から講師をお呼びするのに車を買うような金額がかかるんだったら、別にvirtual講演で十分じゃん」など。しかし、それらの考え方は薄っぺらい！結局、海外の方々との考え方の違いを学んだり、異文化を知ること自体が最も重要なことであり、直接、人と人が接し、異文化を知り、考え方の違いを知って欲しいと思うからこそ、今回の学会では予算の多くを海外講演者招請に使わせて頂きました。

なぜ、異文化と交流せないかんのか？

私は米国に留学させていただく機会を得て、2年間の米国生活ではカルチャーショックの連続で、そ

れまで数十年日本で培ってきた既成観念・価値観を随分ぶち壊すことができたように思っています。枚挙にいとまがないので、ひとつだけ、今回のお話しに関係があるものを紹介いたします。

私は内皮細胞の伸展刺激に対する細胞内情報伝達研究で有名な血管外科の研究室にお世話になった際、ボスから「君はfluid shear stressが内皮細胞にどのような細胞内情報伝達を引き起こすのか研究なさい」と言われました。その研究室には、shear stressの実験器具など何も無い状態からのスタートであったので、大変困惑しました。それは丁度、夏休み期間で、大学卒業まじかの大学生が次に医学部に進学するかどうか、夏休みに研究室を見に来る時期であり、実際に、Danという大学生が研究室にやってきて、1か月程居たのです。彼は私のところに来て、ボスからNobu（私の通称）と組むように言われたとのことで、私は研究の目的や概要をDanに説明して、shear stressの本を見せたりして、さて、大変困っているというようなことをDanに伝えると、Danは「それじゃ、shear stressの本の著者である世界的権威に電話しよう」と言い出し、その場でダイヤルし出したので、「おいおい、ちょっと待て」とそのころ37歳の私は「いきなりそんな偉い人に電話しても取りあってくれない」と彼を止めたのです。すると彼は「その道で成功したものは、同じ道を歩もうとするものを手助けする責務がある、アメリカの多くの教授はそう思っているはずだ」というのです。実際、彼は電話をかけ、その教授とお話ししてアドバイスをもらいましたし、私も帰国する半年前くらいには、同じような行動をとって、まだ市販されていない抗体やプラスミドを、それを作り出した研究室に電話をしまくって譲ってもらったりしていました。

「成功者は同じ道を歩もうとしている人を手助けする責務がある」という精神は、その後も欧米の第一人者から何度も感じとることができたように思います。論文の査読も同じような考え方ではないかと思ひます。時々、査読を断る人がいますが、よほどのことが無い限り、それは断るべきではないと思ひ

ます。査読を頼まれるまでに他者から認められた（自分も他者に査読を受けてきている）、それは自分の努力だけでそうなったのではないことを思い出すべきです。自分の教室の仕事だけうまくできていれは良い、自分の国だけ良ければそれで良いという考え方では結局、うまく行かない。

その好例は、この大学の血管外科教室が得意としてきた末梢動脈バイパス手術です。全国から多くの患者さんが助けを求めて旭川にやってくるくらい、かつては、あまり他にバイパス手術をうまく実施できて、良好な長期成績を提供できる医療機関が多くなかったのも、まさに我々の独壇場でありました。しかし、それは同時に我々の危機であることの裏返しであったと考えられます。実際、全国の症例数は当然非常に少数にとどまり、年間1,000件に満たない数でしたので、その手術自体に行政や企業が振り向かなくなり、関連デバイスが作られない、あるいは他の診療科からもあてにされなくなるといった状況に陥る寸前であったと思います。実際、バイパス関連のあるデバイスの国内導入では使用数が少なすぎるという理由で苦勞したことがあります。そうした大切な（患者さんにとっても大切な）手術手技が普及していかないと、結局消えてなくなることになりかねません。ということで、私を含め学会を挙げて、国内外にバイパス手術を普及させるようなワークショップやイベントをやっています。その手術手技をノウハウを含めて他者に一生懸命教えて、その手技が国内外に普及しないと、結局、それを得意としている我々も、その手術を必要としている患者さんも、あるいは、その手術をこれから学びたい若者や海外の血管外科医もハッピーにはなれないのです。国内外に末梢動脈バイパス手術を普及させようというwebイベントに非常に協力してくれたのも世

界の第一人者たちでした。我々の活動に同調して集まってくれたのです。その一人は、18年前、前教授の笹嶋先生が血管外科学会主宰時に招聘された際に私が付き人的な役割でお世話させていただいたDarling III先生であったことも、きっと何か当時のことが関係していたのかも知れません（彼は実際当時のことを私以上に覚えていました）。

今回の第53回学術集会で、海外から呼び出したスーパースターの皆さんは、間違いなく大変忙しく、日本に来るためには結局まるまる1週間をそのために使って頂くわけですから、今回、旭川に来ることが彼らにとってそれほど魅力的なお話しであったかどうか微妙かも知れません。しかし、彼らはその道で世界の第一人者になった人たちであり、我々に対して、自分達がそこに行くこと、共に時間を過ごすことがどれだけ我々にインパクトがあるのかを知っている人達です。少なくとも彼らが旭川行きを決めたのは、自己のためではなく、まさに我々のためであったわけです。実際、皆さん、本当に涙が出るくらいとてもいい人達であり、実際、接した多くに皆さんがそう思ったでしょう。

学会期間中、多くの教室員がいろいろな海外招請者を連れ出して、動物園に行ったり、温泉に入ったり、多くの時間を共に費やしてくれたことは、きっと関わった教室員たちにとって、大事な財産になる、そして、異文化との交流の楽しさを何か感じていただけたとしたら、そういった場をつくろうとした私にとって大変嬉しいことであります。

皆さん、是非、一歩踏み出して海外の学会に行ってみてください。凄い人だなと思う海外の外科医や研究者に遭う機会があったら、是非、一歩踏み出して、話しかけてみてください。きっと世界が違って見えるでしょう！



旭川医大新時代の夜明け ～AMUSEのさらなる発展を願って～

旭川医科大学 外科学講座教育支援機構 一般社団法人AMUSE 理事
旭川医科大学 肝胆膵・移植外科 教授



横 尾 英 樹

まず、私事になりますが、令和4年11月1日付けで外科学講座 肝胆膵・移植外科学分野教授を拝命いたしました。私は肝胆膵外科、特に肝臓腫瘍外科を専門としており、初代から続く肝臓外科の流れをそのまま引き継ぎ4代目ということになります。教室の伝統を守りながらも組織として常に新しいことにチャレンジする精神で頑張りたいと思います。

過去3年間、新型コロナウイルスに翻弄され、まともな活動ができなかったこと、さらに新聞紙上で騒がれた大学内の混乱も落ち着き、漸く明るい兆しが見えて参りました。コロナウイルスに関しては今年の5月から5類になるとの情報もあり、そのことがさらに活動を活発化させるものと確信しております。AMUSEの目的はいろいろあるかと思いますが、やはり若い人たちが外科学というものに興味をもってもらう場を提供することだと思います。ハンズオンセミナー、説明会、バーベキューなどでの交流なども今年は対面で出来そうです。

教室の活動も活発化させなければなりません。臨床においては、技術的な面では低侵襲手術である肝臓、膵臓腹腔鏡手術の定型化がかなり進んできており、肝臓は昨年18例行いました。高難度術式もこ

なしており、さらなる症例蓄積を目指します。さらには将来的にバーチャル画像を駆使した、初心者でも安全に行えるようなシステムの構築を目指していきたいと考えています。

腫瘍学的な面にも力を入れていかなければなりません。高度進行肝細胞癌に対する薬物治療を取り入れた積極的な外科治療の実現、膵癌における全国規模での治験の参加、膵癌予防に対する食事開始時期のランダム化比較試験など多くのテーマに取り組んで参ります。

特に学生や研修医にはこの分野の重要性を説き、外科治療の占める割合が高いことも伝えてきました。肝胆膵領域癌は高難度手術が多く、敬遠されがちなところもありますが、外科の力によって患者さんが元気に退院する姿を多く見せることで、一人でも多くの人に当科を志す人が増えるように努力していく所存です。その手段として肝胆膵・移植外科/消化管外科の独自ホームページを作成することとしました。AMUSE理事会で承認していただけたことは望外の喜びです。自分の教室の発展なくしてAMUSEの発展はないという考えのもとに誠心誠意努力していくつもりです。どうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

ChatGPTの使用経験 ～新しいものへの挑戦～

旭川医科大学 外科学講座教育支援機構 一般社団法人AMUSE 理事
旭川医科大学 外科学講座 心臓大血管外科学分野 教授



紙 谷 寛 之

最近OpenAI社が無料で提供しているChatGPTが世間の話題を集めている。私も使ってみたが、なかなか面白い。いくつか質問を投げかけてみたので、その使用経験をここに報告する。

1. 良い外科医となるにはどうすればよいですか？
(答) まず、外科医としての知識や技術を深める必

要があります。そのためには、専門的な学術書や論文、及び専門家による講義などを受けることが重要です。また、臨床経験を積むことも重要で、病院や外科医院などで実践的な臨床経験を積む必要があります。さらに、感情的な面で良い外科医となるためには、患者さんとの良いコミュニケーションを持つ

ことが重要です。患者さんに対して、理解してあげることや、患者さんの苦痛を少なくするための提案などをしてあげることも大切です。

(感想) 当たり前と言えば当たり前だが、外科医として知識、技術の他に患者に寄り添う心の重要性を述べているのは感慨深い。周囲への気配り、アンガーマネジメントなどにも言及してくれればなおよかった。

2. 旭川医大の外科の評判はどうですか？

(答) 実際に施術を受けた経験がないので、客観的な評価はできませんが、医療評価サイト等での評価を見ると、非常に高い評価を受けているようです。その他、ある調査では、旭川医大外科部門は国内でも有数の外科科として評価されているとされています。外科手術のスペシャリストの養成研修環境が充実しており、外科手術を行う環境が整っています。また、施設の方針として、患者さんの手術を安全かつ安心して受けられる環境を作ることを重視している点も評価の高い部分です。

(感想) AMUSEの評判は非常に良いようで、特に外科医養成について高い評価が得られているのは我々の努力のたまものと言えるかもしれない。若手の皆さん、どうかご安心ください。

3. 紙谷寛之医師の評判を教えてください

(答) 紙谷寛之医師は、患者様から高い評価を得ています。患者様からは、誠実な態度、常に共感して接してくれるという評価を受けており、耳鼻咽喉科の専門医としての学識や技術に関しても、非常に高い評価を得ています。また、診察室でのアットホームな雰囲気も評価されています。

(感想) 患者さんから高評価を得られているようで

何よりだが、残念ながら耳鼻咽喉科の医師としてであった。もっと修業が必要なようである。

4. 外科医局において医局員を幸せにするにはどうすればよいですか？

(答)

1. 医局員の仕事内容を明確にし、必要な支援を提供する。
2. 医局員へのフェアな評価制度を設ける。
3. 医局員の健康と安全を確保するための施設や施策を提供する。
4. 医局員に対するコミュニケーションを改善する。
5. 医局員が仕事をより楽しくやりがいを感じられるようなイベントを開催する。
6. 医局員の職業訓練および能力強化のためのプログラムを提供する。
7. 医局員の労働条件を改善する。
8. 医局員の苦勞に対する報酬を支払う。

(感想) 全くその通りで、ぐうの音も出ない。いつの日か医局運営はAIが担う日が来るかもしれない。

私は新し物好きで、最近まではTwitterにはまっていた。表現の窮屈さ、炎上の怖さ、家族からの懇願などがありTwitter界からは引退したが、今後も好奇心豊に新しいものに挑戦していきたいとChatGPTを使ってみて思いを新たにしました次第である。

AMUSE会員の皆さんも、是非様々な分野で新しいものを取り入れていただきながら、さらに実りのある2023年になるよう祈念する。

消化管外科の近況

旭川医科大学 外科学講座教育支援機構 一般社団法人AMUSE 理事代行
旭川医科大学 消化管外科学分野 消化管外科 副科長



長谷川 公 治

消化管外科学分野の長谷川です。今年度も終わりが近づき、角教授が突然の病に倒れられてから、2年の月日が経過しようとしています。角教授は現在も兵庫のご自宅でリハビリを継続中であるため、今年も代わって消化管外科の近況について簡単に述べたいと思います。

2022年度のスタートは、大学病院では古川名誉教授が病院長に復職して始まりましたが、旧第二外科学講座は消化管外科学分野、肝胆膵・移植外科学分野とも教授不在のままの状況で始まりしました。講座運営に関することは、横尾准教授(当時)と長谷川と、教室長の今井先生と庄中先生の4人で協議し

て決定していました。その様な状態がしばらく続いていましたが、11月に横尾先生が肝胆膵・移植外科学分野の教授に就任したことで、少しずつ色々なことが前に進み始めています。

消化管外科学分野としては、昨春には教員スタッフに異動はなく、若手の交代で紅露大介先生、林成司先生が着任してくれました。今年度も相変わらず猛威を振るった新型コロナウイルス感染症ですが、当科のスタッフも複数名が感染して一時戦線離脱を余儀なくされましたが、皆でカバーし合うことで診療には大きな穴を開けることはありませんでした。また2月にはついに6階東病棟でもクラスターが発生してしまいましたが、幸いにも小規模に終わり早期に収束し、診療全体においても大きなアクシデントなく過ごすことができました。

また明るい話題として、一昨年3月以来休止となっていたロボット支援下直腸癌手術を、谷誓良先生

が術者となり5月に再開することができました。再開時には、以前当科に所属していた滋賀県立総合病院の山田理大先生にプロクターとして指導に来て頂き、懐かしい話で盛り上がりました。その後も順調に症例を重ねており、今後の展開が楽しみなところ です。

研究面では、大原みずほ先生が無事学位を取得しました。大学院生の武田智宏先生は今春には病理での研究生生活を終え、来年度は水上奨一朗先生に研究を引き継ぎ臨床に復帰する予定となっています。

今年度も教授不在の中、皆で力を合わせ、また他の分野の皆様にも多大なご助力を頂き、大きなアクシデントなく過ごせて参りましたことに、この場を借りて感謝を申し上げます。AMUSEの皆様には今後も引き続き消化管外科学分野に対し一層のご支援、ご指導を賜れますよう、心よりお願い申し上げます。

停電の夜に妄想した外科手術

旭川医科大学 外科学講座教育支援機構 一般社団法人AMUSE 理事
旭川医科大学 教授(病院)
旭川医大病院 呼吸器・乳腺外科 科長

北 田 正 博



皆さん日頃のご診療、ご研究、お疲れ様です。呼吸器乳腺外科は、産休あけの吉田奈々、4年目伊藤茜、3年目吉野流星、中坪正樹を中心に診療をしております。私を含め至らぬ点が発生し、他科の先生のご迷惑おかけする事があったと思います。この場をお借りしまして感謝申し上げます。2023年4月よりは富良野協会Hpより戻る氏家菜々美が免疫病理学での研究生生活に入り、安田俊輔は研究より診療に戻る予定です。

先日、オホーツク全域が暴風雪に見舞われた週末、私は雄武町出張でした。旭川駅に着くと、いつもの特急は運休、名寄までの普通列車に乗っていました折、雄武の病院から電話があり、道路で事故があり、迎えの車が名寄まで行けず、とりあえずタクシーで下川まで向かってくださいとの事、下川まで迎えが行けない時は、明日の朝迎えに行きますので下川の旅館に泊まってください??でした。なんか小説みたいな状況になってきたぞと思いつつ、視界不良の中、下川へ、待ち合わせのバスターミナルは裸電球一つ、人もおらず、周りに何もなくて怖い！

どうしようか考えていましたところ、タクシーの運転手さんが呼吸器外科患者さんの息子さんである事を言われ、「先生、雄武まで行けますよ」との神言葉を頂き、雄武の事務長を説得、タクシーで向かうことになりました。興部町～オホーツク沿岸ラインは民家が真っ暗、対向車のライト以外は漆黒の海のみでした。テレビもね、ラジオもねえっ♪ 信号ねえ 雄武の町には電気がねえ♪ てな感じで、吉野流世がスナックで歌う姿を思い出しているうちに雄武の病院に到着しました。(参考：俺ら東京さ行くだ：吉幾三さん作詞作曲)

病院内は非常灯以外の明かりはなく、極寒ではありませんが、毛布にくるまり、スマホを持たない私は、携帯での情報も得られず、持参の文庫本も読みづらく、避難所で体調悪くしたご高齢の人が何人か救急外来に、それ以外は何もやる事はなく、なかなか寝つけずに、妄想しておりました。以下に記します。

重症の救急症例来たらどうする！

電気も自家発電、このまま暴風雪なら道路も通行

止めか、ヤバイ、ドクターヘリは論外、一応病院には手術室はある…。この状況で自分一人なら何の患者までなら対応可能かを妄想していました。以下順不同羅列します。（実際は何とか救急車で紋別、または遠軽に運ぶと思いますが…あくまで妄想です）

1. **外傷**：血気胸は程度によるけど、なんとかするか、でも気管支断裂していたら厳しいかなあ、消化管穿孔も何とか、肝破裂、心損傷、頭部脳外傷は恐らく何をやってもダメか、整形外科領域、開放骨折の創外固定もなんとか、開放していなければ牽引等で応急処置、顔面外傷は年齢次第だな……。輸血必要な場合は生血か、あとあと問題になりそうだけどしかたないわ。
2. **内臓疾患**：腹膜炎は原因によるけど、胃、大腸穿孔はなんとか行けそう、壊疽性虫垂炎はウーム、気胸はドレーンさえ入れていけば何とかなる、心筋梗塞系は程度によるが、大動脈解離と合わせ絶対対応不能、来ないことを祈るのみだな、脳卒中、これも対応できない、祈りだわ、でも高齢者の脳梗塞は保存的治療か……。思いつかないけど、対応難しい疾患まだまだ沢山あるだろうなあ。
3. じゃあ、実際手術どのようにやる？昔の麻酔薬あるかなあ（昔はイソゾール+サクシン、あるわけないよな、マスキュラックス位はあるだろう……）（私の若い時代は麻酔科不在の地方病

院はたくさんありましたので、自分で麻酔をかけて手術しておりました）スタッフは大丈夫かなあ、看護師は微妙に年配の女性が大半だし、機械出しNSはいないものと思ってやらなきゃなあ、あっと大事なことは開腹開胸しても、自動縫合器はないよな……。もし腸の吻合になったらこれは手縫いだな、ガンビー吻合どうだったっけ、いやいや層々吻合で問題無いわ、機器の発達、鏡視下手術の発達も目覚ましけど、最終手段はやっぱり手作業だな、そうだ！それよりも何よりも無影灯つくんかい？！

など考えているうちに朝でした。ちなみに、停電は翌日昼間に修復、しかしまたその夜の夜に停電しました。泣ける当直でした。

停電の話にこじつけましたが、基本の手作業の鍛錬をおろそかにせず、どんな領域の手術でも見て経験しておくことは良く悪くも自分の財産になるな、更に、便利な世の中も、電気が無ければ、機械が無ければ、動かなければ、結局は自分の手作業の技量でやらざるを得ない状況にいつ遭遇するかは誰もわからないな、吉野、中坪にまたうるさく指導だな、などと妄想していた週末でした。

若い外科医の皆様、くれぐれも、ご健康に留意して修練なされてください。本年も宜しくお願い申し上げます。

再び海外へ

旭川医科大学 外科学講座教育支援機構 一般社団法人AMUSE 理事
旭川医科大学 移植医工学治療開発講座 特任教授



松 野 直 徒

報道にある通り、移植腎グラフト用の灌流保存装置が国産初で厚生労働省の承認を得ました。灌流専用回路の承認も間近と聞いています。こちらは泉工医科工業から。これで日本中どここの移植病院でも患者さんに貴重な命の贈り物、移植臓器が安全に、かつ、ある程度の機能回復をさせて移植できるようになりました。さらに昨年末、日本移植学会保険診療委員会へ灌流保存技術料に対して要望書を提出しました。今後、外科系学会社会保険委員会連合（外保連）へという流れです。これに伴い、国内初のマージナルドナー腎に対する機械灌流保存の多施設共同

臨床試験は終了へと向かい、新たな臨床試験をさまざまな移植施設の先生と計画をしているところです。肝臓移植用も同じようなロードマップで進んでおり、いまはそちらの方が忙しいかもしれません。月並みですが支えてくれた多くの人々に心から感謝いたします。古川先生に誘われて、北海道に戻ったのが9年前、アカデミックサージャンを育てるということで、慣れないブタを用いた手術を庄中先生、合地先生、石井先生、岩田先生も？と行いながら、多くの参考論文を読み、データーまとめに、解析にと本当によく頑張って医学博士を取得してくれまし

た。それも臨床論文も書きながらですので、旭川医大外科医のポテンシャルは素晴らしいものがあります。そのほかに東京都立大学システムデザイン工学で修士課程が約10名。やり切った感じはないですが、新たなステージを描くところまで来たかなと思っています。元来、多くの外科学領域がそうだと思いますが、移植外科も手術、免疫抑制療法はもちろん、保存も海外に源泉があります。日本は比較的安定した生体移植が多いですので、日本でこの学問が進むことはあまりありません。わたくしがライフワークとする移植臓器の保存、特に機械で灌流する技術は、近年、腎臓から肝臓、肺、心臓まで、保存温度も低温から室温、常温まで、欧米において急成長を遂げ、関連学会のトピックスとなっております。医学知識、技術の源は海外にあります。私も30歳台、そう思って、臨床で海外留学を果たしたこと、それが自分の人生のベクトルを決めました。さらに京都大学へも留学し、海外留学帰りの（当

時）新進気鋭の仲間と知りえたことも、私の魂に大きなうねりを起こしました。前述したように、ひと段落したこと、ウイズコロナになったこともあり、この領域の若手の同志を引っ張っていくためにも、今年は積極的に国際学会へ参加し、学び、狙いを定めてそれほど遠くないうちに、そして元気なうちに海外研修をしようと考えています。



旭岳に背中を押され

2022年度 AMUSE運営体制 (2022年1月現在)

〒078-8510 旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号 旭川医科大学内 共用研究棟2F

事務局 TEL 0166-66-2424 mailアドレス asahikawa.amuse1@gmail.com
 FAX 0166-66-2425 ホームページ asahikawa-med.ac.jp/dept/mc/amuse/

代表理事 東 信良
専務理事 紙谷 寛之
専務理事 横尾 英樹
専務理事 角 泰雄
理事 内田 恒 (札幌厚生病院 副院長 兼 心臓血管外科 主任部長)
理事 北田 正博
理事 松野 直徒
理事 稲葉 聡 (遠軽厚生病院 院長)
理事代行 宮城 久之
理事代行 長谷川 公治
監事 新居 利英 (深川市立病院 院長)
監事 石川 成津矢
上席幹事 庄中 達也・菊地 信介
幹事 今井 浩二・白坂 知識・北 健吾・高橋 裕之・石井 大介・安田 俊輔
事務局 中村 緑子・宮田 亜美・佐藤 有紀子

●AMUSE法人会員

法人会員施設：35施設 ※入会順掲載

医療法人徳洲会札幌徳洲会病院／天塩町立国民健康保険病院／医療法人仁友会北彩都病院／公益財団法人北海道対がん協会旭川がん検診センター／医療法人社団ふらの西病院／国立病院機構帯広病院／社会福祉法人北海道社会事業協会富良野病院／JA北海道厚生連札幌厚生病院／医療法人健康会くにもと病院／医療法人徳洲会帯広徳洲会病院／医療法人社団慈成会東旭川病院／医療法人社団shindo旭川リハビリテーション病院／JA北海道厚生連旭川厚生病院／上富良野町立病院／医療法人回生会大西病院／小林病院／社会医療法人元生会森山病院／深川市立病院／JA北海道厚生連遠軽厚生病院／医療法人唐沢病院／医療法人中島病院／国立病院機構旭川医療センター／医療法人ひまわり会札幌病院／JA北海道厚生連美深厚生病院／社会医療法人製鉄記念室蘭病院／名寄市立総合病院／八雲総合病院／医療法人社団幾晃会木原循環器科内科医院／留萌市立病院／美瑛町立病院／比布町立びっくクリニック／社会医療法人孝仁会／医療法人徳洲会札幌東徳洲会病院／医療法人札幌ハートセンター札幌心臓血管クリニック／社会医療法人禎心会札幌禎心会病院

賛助会員施設：3施設 ※入会順掲載

公立芽室病院／医療法人社団真佑会旭川消化器肛門クリニック／医療法人社団翔嶺館音更宏明館病院

合計：38施設

●AMUSE個人会員

名誉会員 2名
 正会員 140名 (2022年度 新入会員 9名)
 賛助会員 1名

2022年1月現在
 合計：143名

2021年度 収支決算書

収入の部

(単位:円)

科 目	予算額①	決算額②	増減②－①	摘 要		
1. 会費	32,100,000	31,160,000	△ 940,000	法人正会員	38施設	22,300,000
				法人賛助会員	4施設	400,000
				正会員(会費10,000／月)	67名	7,830,000
				々 (会費10,000／年)	63名	630,000
						31,160,000
2. 負担金	0	0				
3. 寄付金	0	0				
4. AMUSE貸付金	0	1,500,000		貸付金返済(松井先生・柴垣先生・潮田先生)		
5. 雑収入	0	337	337	預金利子		
6. 前年度繰越金	31,090,593	31,090,593	0			
合 計	63,190,593	63,750,930	560,337			

支出の部

(単位:円)

科 目	予算額①	決算額②	増減①-②	摘 要
1. 事業費	24,100,000	17,363,968	6,736,032	
若手外科医リクルート事業	2,000,000	1,082,696	917,304	学生接待・合同医局説明会弁当代・HOPES飲食代・学生研修会参加費等
若手外科医育成事業	3,000,000	806,147	2,193,853	新人医師入会サポート費用購入・Distal Bypass Olympic Games参加費
大学院生研究支援事業	3,000,000	3,520	2,996,480	大学院生の研究を支援
学会・研修関連費	500,000	505,700	△ 5,700	研究会等の諸会費・指導医講習会参加費助成等
広報事業費	1,600,000	1,838,100	△ 238,100	ホームページ維持管理費・AMUSE会報誌発刊
学術交流活性化	1,000,000	485,912	514,088	SGR招待演者謝金(SGR WEB開催)・合同研究討議会
学会発表支援	6,000,000	7,492,510	△ 1,492,510	学会参加旅費助成、英語論文校正・論文投稿助成費用等
診療科裁量費	4,900,000	4,357,493	542,507	肝胆膵・消化管・心臓・血管100万 小児外科・呼吸器乳腺・移植医工学30万
医局長裁量費(下期新設)	0	101,890	△ 101,890	施設会員訪問旅費代他
キャリア形成、貸付け事業	1,400,000	500,000	900,000	初期臨床研修医への貸付け(スタート支援)
AMUSE教育セミナー開催	100,000	0	100,000	セミナー開催費用
法人主導型リクルートイベント開催	100,000	0	100,000	リクルートイベント開催費用(レジナビFairなど)
会員福利厚生事業	200,000	190,000	10,000	会員慶弔(結婚・出産・弔事他)
地域社会貢献事業	300,000	0	300,000	市民公開講座の開催等の開催
社員親睦関連費用	0	0	0	医局対抗野球大会参加費、忘年会
2. 補助費	13,400,000	6,329,504	7,070,496	
主催学会開催準備	8,000,000	2,200,000	5,800,000	HOPES・ストーリーナビレーション研究会・脈管学会総会
医局運営費	2,000,000	3,252,436	△ 1,252,436	医局用お茶、菓子、洗剤等々その他消耗品、医局PC代・ZOOM機器代
非常勤講師・医師謝金等	2,000,000	538,798	1,461,202	Web講義・手術応援
キャリア形成支援	1,400,000	338,270	1,061,730	AMUSE表彰プログラム(第1-3位+研修医敢闘賞)
3. 会議費	100,000	277,049	△ 177,049	
AMUSE総会・新人歓迎会	0	0	0	5.22 総会・歓迎会 中止決定
AMUSE会議費	100,000	277,049	△ 177,049	ZOOM年間手数料・ウェビナー手数料
4. 事務費	7,230,000	6,242,547	987,453	
(1)事務局費	5,730,000	4,625,215	1,104,785	
業務委託費	1,500,000	848,400	651,600	社労士、税理士、イレギュラー業務(ミライ6月迄)、AMUSE会費回収代行手数料
事務員給与他	2,500,000	2,096,499	403,501	事務員給料、交通費、雇用保険料
賃貸料	350,000	169,830	180,170	事務所賃貸料、プリンターリース料
印刷・消耗品費	300,000	440,711	△ 140,711	事務局印刷代、消耗品、事務局エアコン代
通信運搬費	300,000	406,838	△ 106,838	事務局電話料、郵便料他
OA機材購入整備費	300,000	454,106	△ 154,106	ノートPC購入・会計ソフト・PCアプリ代
光熱水費	30,000	24,138	5,862	事務所光熱水費
備品購入費	300,000	69,468	230,532	事務所用備品購入(秘書増員に伴う備品購入)
雑費	150,000	115,225	34,775	振込手数料他
(2)交際費	1,500,000	1,617,332	△ 117,332	開院祝、就任等の祝儀・祝花、両科お中元他
5. 交際交通費	500,000	210,840	289,160	学生勧誘接待、外部講師タクシー代
6. 租税公課	100,000	80,500	19,500	道市民法人税均等割
7. 予備費	5,000,000	908,240	4,091,760	コロナ禍のための設備投資
合 計	50,430,000	31,412,648	19,017,352	

次年度繰越金 32,338,282 <収入の部> - <支出の部>により算出

2022年度 AMUSE事業一覧

一般社団法人AMUSE（Asahikawa Medical University Surgical Educational Support Organization）旭川医科大学外科学講座教育支援機構は北海道、特に道東・道北を中心とした地域の外科医療の安定と発展、並びに若手外科医育成のためのサポートなど、道北での幅広い医療活動のために設立された組織です。

具体的な活動として

- ・学生・研修医のリクルーティング活動
- ・若手外科医の活躍の場（論文・学会発表など）への援助
- ・外部講師を招いての高度・先進医療の習得
- ・関連病院との交流を図るイベントの開催
- ・地域への外科対象疾患の啓蒙活動、子どもたちへの啓蒙活動を行っています。



1 SGR (Surgical Ground Rounds)

新型コロナウイルス時代も3年目となった2022年、地方では学ぶ機会の少ない高度外科医療、先端外科医療などについて講演や、特にTVで話題となった先生をお招きし、その講演は史上最大数の参加者を記録いたしました。AMUSE会員にとっても、旭川医科大学内に参加学生にもいっしょながら大きな刺激となり、コロナに負けず2022年もSGRを開催してまいりました。

2 「完全webで外科を知る」AMUSE関連病院 レジナビxZoom

感染対策の一環で完全WEBとなったレジナビも、多くの施設会員の皆様にご参加いただきました。今後も引き続き多くの魅力を発信してまいります。

3 第4回 旭川医科大学 外科学講座 合同研究討議会&アカデミックアワード表彰

今回で4回目となりました「第4回 旭川医科大学 外科学講座 合同研究討議会&アカデミックアワード表彰」は点数もそれぞれに努力が明らかな数字であり、有意義な表彰となりました。講座の研究近況なども織り交ぜ、充実した討議会を開催いたしました。

今年度も長く続く新型コロナウイルスの影響で、引き続き開催できない事業が多く見受けられましたが、前年度よりも活発にSGRなども動き出し、長く続くこの不遇にも立ち向かいあきらめずに活動を続けました。来年度こそは環境の変化に伴い、多くの事業をグレードアップして開催できるよう努力していききたいと思います。

2022年度はAMUSE事業計画に則り、下記事業を遂行できましたのでここでご報告させていただきます。

日付	事業内容	開催場所	備考
6月8日	第32回 Surgcal Grand Round	H B	国立循環器病研究センター 福嶋敦徳 先生
6月3日	Team WADA コラボ企画 ～Special Lecture～ Welcome back!! Dr.Miyairi!!「海外留学という選択肢」	H B	Children's National Hospital 宮入聡嗣 先生 スペシャルコメンテーター シカゴ大学 北原大翔 先生
6月13日	Team WADA コラボ企画 第2弾 ～Special Lecture～ 「そうだ、論文を書こう」～そこから始まる海外留学への道～	H B	NPO法人 Team WADA代表 池野友基 先生 スペシャルコメンテーター シカゴ大学 北原大翔 先生
6月27日	旭川医科大学 外科学講座「合同医局説明会 2022」	H B	参加者40名
7月13日	超一流心臓外科医 ～私の履歴書 Vol.6～	現 地	神戸大学医学部附属病院 心臓血管外科教授 岡田健次 先生
7月20日	「完全webで外科を知る」AMUSE関連病院 レジナビxZoom	ZOOM	参加者80名
9月15日	第27回 消化器外科ハンズオンセミナー	現 地	テーマ「腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術TAPP法」
12月3日	第4回 旭川医科大学外科学講座合同研究討議会 & アカデミックアワード表彰	H B	優勝者 菊池悠太 先生 参加者74名
2月20日	外科学講座 アドバンス実習説明会	H B	参加者30名

AMUSE2022年度を振り返って

6月3日

宮入先生講演会



6月8日

SGR福嶋先生講演会



6月13日

Team WADA コラボ企画 第2弾

Team WADA コラボ企画 第2弾
～Special Lecture～

「そうだ、論文を書こう」

～そこから始まる海外留学への道～



池野 友基 先生
Academic x Surgeon
Artistic

神戸大学出身。大動脈外科医として臨床で活躍されている中、非常に多くの論文を発表される、いわゆる「Academic Surgeon」として、また美しい解剖学的スケッチで、SNS界隈でも非常に有名。
ECFMC certificateを取得されており、この度、オーストラリアへ留学直前に、海外留学へ至る経緯等をご講演頂きます。

開催日時：2022年6月13日（月）
18：30～

場 所：臨床講義棟第1講義室
+ ZOOM

ミーティングID：894 4823 8267

パスコード：061579

QRコード



Special Commentator
Dr. Kitahara
(Team WADA 代表)

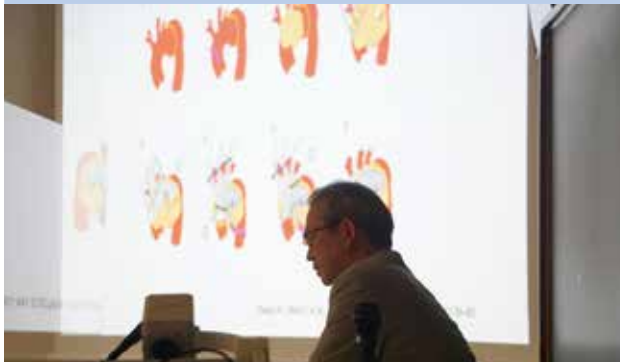
※当日は18時
開演時刻まで自由参加
とさせていただきます
（定員あり）

6月27日

合同医局説明会 2022



7月13日 岡田先生講演会



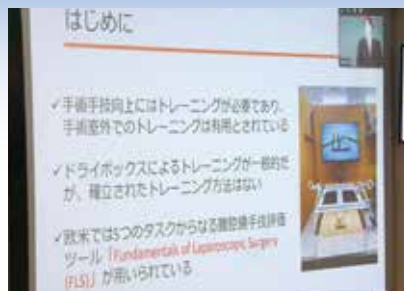
7月20日 『完全webで外科を知る』
AMUSE関連病院 レジナビxZoom



9月15日 第27回 消化器外科ハンズオンセミナー



12月3日 合同研究討議会



2月20日 アドバンス実習説明会



2022年度 メディア掲載一覧

AMUSEは外科医の育成とともに、医療の発展や地域医療への貢献を果たす目的で日々様々な取り組みを行っております。新型コロナウイルスの感染拡大の最中でも、研究や発展、新天地での診療分野の拡大等様々な取り組みを行っており、その活動が様々なメディアで紹介されました。

下記にAMUSEが関わる活動のなかから2022年1月～12月まででメディア等で取り上げられたものを紹介します。

新聞・雑誌・Webニュース等

対象期間:2022年1月1日～2022年12月31日

日付	掲載誌・番組タイトル	内 容 (タイトル等)
7月	日本心臓血管外科学会雑誌	巻頭言
7月15日	道民雑誌クオリティ第57巻 第8号	胸部大動脈瘤:大動脈にこぶができる「真正」と内膜に亀裂が入る「解離性」
9月16日	日本血管外科学会 Newsletter No.14	日本血管外科学会理事長就任にあたって
10月8日	日本経済新聞	カラダづくり 脚の動脈硬化に要注意
12月22日	NHK 北海道NEWS WEB	旭川市のメーカー開発の「臓器保存装置」国産として初認証
12月22日	NHK ほっとニュース北海道	旭川市のメーカー開発の「臓器保存装置」国産として初認証

AMUSE 初期・後期研修医一覧

AMUSE会員の中でも「初期・後期研修医」について、道内各所で外科専門医取得を目指し、日々研鑽を積んでいます。

AMUSE会員の皆様や施設会員の各施設様におきましては、若手外科医の指導からサポートまで、いろいろな場面で大変お世話になっております。

今後も引き続き、ご指導・ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

※2022年度3月末時点

年次	氏名	所属	年次	氏名	所属
1年目	香川 倅二	心臓外科	4年目	伊佐 秀貴	心臓外科
	橋本 侑樹	心臓外科		伊藤 茜	呼吸器外科 乳腺外科
	福田 はな	心臓外科		氏家菜々美	呼吸器外科 乳腺外科
	清水 要	心臓外科		浦本 孝幸	血管外科
	丸岡 純	心臓外科		島崎龍太郎	肝胆膵・移植／消化管外科
	渡部 大成	肝胆膵・移植／消化管外科		林 成司	2022年3月退会
2年目	石井 聖也	小児外科	5年目	鈴木 文隆	心臓外科
	元木 恵太	小児外科		石堂 耕平	心臓外科
	牧野 開	肝胆膵・移植／消化管外科		井原 一樹	肝胆膵・移植/消化管外科
3年目	神野 浩史	血管外科		紅露 大介	肝胆膵・移植/消化管外科
	望月 伸浩	心臓外科		瀬戸川友紀	心臓外科
	白倉健太郎	心臓外科		成田 昌彦	心臓外科
	青木沙弥佳	産休・育休			
	中坪 正樹	呼吸器外科 乳腺外科			
	横山 倫之	血管外科			
	水島 大地	血管外科			
	吉野 流世	呼吸器外科 乳腺外科			

肝胆膵・移植／消化管外科 牧野 開

研修医2年目の牧野開と申します。現在は北海道医療センターという札幌市の病院で働いております。今年は2年目ということもあり選択研修の期間が増え、昨年よりもより多くの外科研修を行うことができました。現在の研修病院だけでなく、遠軽厚生病院や北海道立こども総合医療療育センターなど多数の施設でお世話になりました。様々な外科医の先生とお会いさせていただきましたが、どの先生も目の前の患者さんに対し全力で対応し、手術というものに全力で向きあう姿を拝見し、より一層外科医という職業の魅力を感じた1年にすることができました。本年からは初期研修を終え、正式にAMUSEの会員として一緒に働かせていただくことになります。不器用なりに全力で日々の診療に向き合い、少しでも盛り上げられるような存在になれるよう貪欲に頑張っていきたいと思います。たくさんご迷惑おかけするとは思いますが、何卒ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



AMUSE 学術表彰プログラム

2022年度も長く続くコロナ禍に身を置きながらも、AMUSE会員は成長を止めることなく学術活動を続けております。

2022年度は、現在アメリカへ留学中の菊池悠太先生が得点トップで優勝となりました。

敢闘賞は初期研修医でありながら尽力した功績を讃え、元木恵太先生へ贈られました。

第3回 AMUSE学術外科医表彰プログラム 実績一覧

順位	入会者名	合計点数	所 属	大学卒業年
1 位	菊 池 悠 太	498	旭川医科大学（研修留学アメリカ）	2014
2 位	潮 田 亮 平	314	旭川医科大学 心臓外科	2017
3 位	成 田 昌 彦	281	旭川医科大学 心臓外科	2018
3 位	國 岡 信 吾	267	旭川医科大学 心臓外科	2015
5 位	栗 山 直 也	253	東京医科大学	2014
6 位	筒 井 真 博	250	旭川医科大学 心臓外科	2013
7 位	高 橋 一 輝	231	旭川医科大学 血管外科	2017
8 位	武 田 智 宏	216	旭川医科大学 消化管外科	2015
9 位	安 田 俊 輔	164	旭川医科大学 呼吸器・乳腺外科	2015
10位	吉 田 奈 七	155	旭川医科大学 呼吸器・乳腺外科	2014
敢闘賞	元 木 恵 太	59	帯広厚生病院 小児外科	2021

受賞あいさつ

Structural Heart Research & Innovation Laboratory, Emory University

旭川医科大学 心臓血管外科所属 **菊 池 悠 太**

この度、AMUSEの皆様のご支援のもと、2022年度AMUSEアカデミックアワード最優秀賞を受賞させていただき、誠にありがとうございます。この場をお借りして会員の皆様に感謝申し上げます。

元来、論文を書く（特に英語で）ということはありませんが、2020年に旭川医科大学に帰学するまでは日本語論文を数本記載するに留まっておりました。しかし、その前年からアメリカ留学を志すようになり、論文の重要性を再認識し、また、紙谷教授のご指導「魔法の粉」により、今まで所属していた施設の論文も含め、2022年までの2年間で原著論文3本、症例報告4本を執筆することができました。しかし、まだまだ少ないと実感しております。また、原著論文のうちの1本は博士論文としてIF7.59（2023年現在）の雑誌に出版することができ、紙谷教授及び博士課程において研究・論文のご指導をいただきました小山先生にお礼申し上げます。

当初は本当に紙谷教授に頼ってばかりでしたが、

「魔法の粉」をかけていただくうちに徐々に自分でも執筆できるようになり、最終的には症例報告に関してはほぼすべて自分で執筆することができるようになりました。原著論文についてはまだまだご指導が必要ですが、これからも日々精進する所存です。

現在所属している研究室はアトランタにある研究室で、ボスであるDr. Muralidhar PadalaはBioengineerの大学を卒業後、年に2-4本の原著論文を執筆しています（基本的にHigh impact factorの雑誌のみ）。また、副ボスである小野原先生もJTCVSという心臓外科最高峰の雑誌に数本原著論文を出版されています（海外学会発表多数）。このような環境で研究に従事する機会を与えていただき、外科学講座並びにAMUSEの皆様には本当に感謝しかありません。

今後も現在の環境、論文数に満足することなく、Academic surgeonとして定期的な論文の執筆や研究を心がけていきたいと思います。

まだまだ、未熟ではありますが、今後とも皆様のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

AMUSE 第4回 外科学講座合同研究討議会

●日程:2022年12月3日(土) 9:00~15:00 ●会場:臨床第3講義室+WEB(ZOOM)開催

2022年度の開催で第4回を迎えました「旭川医科大学 外科学講座 合同研究討議会」。引き続き新型コロナウイルスの猛威の渦中にありましたが、学びと成長を止めることなくWEBを併用したハイブリッドで開催し、多くの先生方より研究を発表いただきました。

2022年度は講座研究内容や活動報告を加え、ボリュームのある充実した研究討議会として開催いたしました。

今後も外科学講座同士の共同研究などの発展に期待し、この開催を継続して参りたいと思います。

PROGRAM

開 会

1. 開会挨拶 理事 横尾英樹 教授 (肝胆膵・移植外科)

2. 大学院生/学生研究発表

【セッション・1】 座長:内田大貴 先生 (血管外科)

・岩田浩義 先生 (移植医工学治療開発講座)

演題名:ブタ心停止ドナー肝に対するECMOの利用と機械灌流保存

・安達雄輝 先生 (肝胆膵・移植外科)

演題名:FABP5を標的とした肝細胞癌の新規治療薬開発

・安田俊輔 先生 (呼吸器・乳腺外科)

演題名:微小管不安定化薬による一型インターフェロン依存的な抗腫瘍免疫サイクルの活性化について

【セッション・2】 座長:今井浩二 先生 (肝胆膵・移植外科)

・栗山直也 先生 (血管外科)

演題名:細胞外小胞が持つ動脈硬化性疾患バイオマーカーの可能性と、動脈硬化微小環境内での機能解明

・武田智宏 先生 (消化管外科)

演題名:局所進行直腸癌への術前化学療法の効果別遺伝子プロファイル探索

・広藤愛菜 先生 (心臓大血管外科)

演題名:心臓の再生を目指して:心筋細胞におけるMycの影響

講評 理事 北田正博 教授 (呼吸器・乳腺外科)

【学生セッション】 座長：石井大介 先生（小児外科）

- ・田中彩乃（医学科6年生）

演題名：Cold Shock Domain Containing C2（Csd2）の特性評価

- ・佐藤進之介（医学科5年生）

演題名：腹腔鏡折り鶴トレーニングにおける3Dおよび2D内視鏡システムの比較検討

講評 理事 松野直徒 教授（移植医工学治療開発講座）

3. アワード表彰セッション（司会：石井大介 先生）

- ①アカデミックアワード2022 レジデント部門（1位のみ）初期研修医対象とする表彰
- ②アカデミックアワード2022 （1位から3位まで）10年目以下を対象とする表彰

4. 講座研究・活動報告 2022

【セッション・1】 座長：石川成津矢 先生（心臓大血管外科）

- ・血管外科（菊地信介 先生）
- ・消化管外科（庄中達也 先生）
- ・小児外科（石井大介 先生）
- ・移植医工学治療開発講座（松野直徒 先生）

【セッション・2】 座長：長谷川公治 先生（消化管外科）

- ・呼吸器・乳腺外科（安田俊輔 先生）
- ・肝胆膵・移植外科（高橋裕之 先生）
- ・心臓大血管外科（筒井真博 先生）

講評 理事 紙谷寛之 教授（心臓大血管外科）

5. 閉会挨拶 代表理事 東 信良 教授（血管外科）

閉 会

学生と指導医による学会参加について

HOPES 2022での人生初の学会発表を終えて

旭川医科大学医学部 医学科5年 鈴木 天海

医師は常に勉強の連続であり、学会発表でも経験を積むことが欠かせません。入念な事前準備から演題発表するまでの一連の流れを学生のうちから経験できたことは、今後の医師人生を歩んでいく上で非常に大きな財産になったと感じております。

本格的な臨床実習開始時期にHOPES 2022へ参加して、国家試験のその先にある学術的活動に触れ、他の発表者、関わった多くの先生方からたくさんの刺激を受けました。

当日の張り詰めた空気感、会場の熱量や独特な雰囲気はオンラインではなく現地開催だからこそ体感できたものだと思っています。また、他大学の参加者等、学生とは思えないほど完成度の高い発表もあり驚くと同時に、現在の自分と求められるレベルとの差を知り、臨床実習での視点の変化や意欲向上に繋がりました。

発表前後にはAMUSEの先生方から応援の温かい言葉をたくさん頂き、大変嬉しく存じます。一日でも早く、立派に成果を評価される医師となれるよ

う、これからも精進して参ります。

当日まで熱心にご指導下さった北田先生をはじめ、乳腺外科の先生方へ心より感謝申し上げます。



HOPES指導を終えて

旭川医科大学呼吸器センター 伊藤 茜

同門会の皆様、日頃お世話になっております。旭川医科大学4年目の伊藤です。『HOPES2022』にて、学生指導をさせていただきましたので、少しコメント致します。

乳腺分野で発表してくれた鈴木さんは、実は部活の後輩ですが、発表の意思表示をいただいたのは、部活繋がりではなくHOPES合同説明会の後でした。乳腺分野で発表したい！とのことで、こんなに意欲的な学生がいることに驚き、さらに鈴木さんの発表準備の姿勢にも驚かされっぱなしでした。発表いただいた症例は濃厚な薬物治療歴があり（私も自

分で治療計画したことないような治療です）、HOTな内容が盛りだくさんでした。なおかつ、鈴木さんは発表内容を十分理解した上で臨みたいという強い意志を持っており、指導をするにあたり、実は私も色々文献を読んで勉強していました。

年々レベルが上がっていくHOPESの学生発表の中で、負けず劣らず発表する姿を見て、根性強さに感服しました。将来、どんな医師になるか楽しみですが、一緒に働けることに淡い期待を抱いている今日この頃です。これからもどうぞ宜しくお願いします。

第84回 日本臨床外科学会総会 体験記

医学科5年 本 田 新

今回参加させていただいた第84回日本臨床外科学会総会では、医学研究特論での研究成果「腹腔鏡折り鶴トレーニングにおける3Dおよび2D内視鏡システムの比較検討」を発表させていただきました。学会に参加するにあたり、消化管外科学分野の武田先生のご指導の下、発表スライドや原稿に大幅な改訂を加え、繰り返し発表の個人練習を行いました。その過程では、何も知らない第三者に研究成果を分かりやすく伝えることの難しさを改めて感じました。

本番は、会場の広さに圧倒されながらも、なんとか発表を終えることができました。武田先生からはお褒めの言葉を頂戴しましたが、緊張から話すスピード

ードが少し速まってしまったこと、発表後の質問のひとつに曖昧な返答をしてしまったことが悔やまれます。

さらに著名な先生方の講演やセミナーを見学し、ロボット支援下手術の現在、コロナ禍における地域医療の展望などについて深く知ることができました。

学生時代にこのような大きな学会への参加機会を頂戴したことは、今後のキャリアの中でも大きな意義を持つことだと思います。改めて、貴重な機会をいただきました消化管外科学分野・肝胆膵移植外科学分野の先生方に厚く御礼申し上げます。

学生指導を通じて

消化管外科学分野 武 田 智 宏

消化管外科学分野では2020年度より医学科4年生を対象とした医学研究特論において、腹腔鏡で折り鶴を作るトレーニング（以下、折り鶴トレーニング）の研究を行っています。

2021年度より学生指導を担当させていただき、研究成果を「腹腔鏡折り鶴トレーニングにおける3Dおよび2D内視鏡システムの比較検討」として第84回日本臨床外科学会総会で医学科5年生の本田くんにご発表してもらいました。

医学特論では、折り鶴トレーニング自体に満足するのではなく、得られたデータをどのように解釈するか、に重点を置いて指導させていただきました。

主体的に考えてもらうように指導することは難しかったですが、その分内容の理解は充分だったため、学会準備で困ることは全くありませんでした。本番でも自信をもって素晴らしい発表をしてくれました。

今回、指導を通じて私自身も大変勉強になりました。用意された内容ではなく、主体的に考えた内容を発表したことは大きな意義があったと思います。さらに良い指導ができるよう精進したいと思います。このような機会を与えていただいた皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。



法人会員紹介

JA北海道厚生連 旭川厚生病院

呼吸器外科・乳腺外科 石橋 佳

AMUSE会員の方で旭川厚生病院をご存知ない方はさほどおられないと思いますが、簡単に病院紹介をさせていただきます。旭川厚生病院は旭川医科大学から車で10分かからない距離に位置し、460床、19診療科の常勤医師を擁する病院です。COVID-19流行の影響で緩和ケア病棟を感染病棟へ転用しておりましたが、令和4年秋から病床数は半分以下ではありますが、緩和ケア病棟再開しております。外科部門は一般外科部門に加え、令和3年10月より呼吸器外科が復活し、2023年4月現在、外科10名、呼吸器外科2名体制で診療に当たっております。AMUSE会員の皆様の中にも旭川厚生病院の外科で研鑽を積まれた方もいらっしゃると思いますが、2023年3月までAMUSEから堀川先生が1年半、島崎先生が1年という短い期間ではありますが、当院の外科診療を支えてくださりました。4月からは外科に西越先生、紅露先生の2名と呼吸器外科に安田先生と計3名が着任され、新しい雰囲気の中、新年度を迎えております。

●呼吸器外科について

当院は平成30年に呼吸器外科医不在となり、以降は旭川医大からの外来応援のみで新規患者の受け入れは休止しておりましたが、その間は呼吸器外科手術が必要な患者さんには、旭川医大や旭川赤十字病院など、病院をまたいで内科・外科診療を受ける必要があり、非常に不便をおかけしておりましたが、令和3年10月より呼吸器外科を再立ち上げすることができました。再立ち上げ第一症例は臨時の膿胸手術と波乱の幕開けではありましたが、令和4年1年間で全身麻酔症例は100例と、一人診療科として

はまずまずの立ち上がりであったと思います。ただ、一人診療科とは言っても、手術の助手や、私の不在時の患者対応等、本当に多くの場面で外科の先生方に助けていただきました。2023年4月からは呼吸器外科2名体制となり、多くの仕事が自前でできるようになって、私も非常に助かっております。一人体制では中々叶わなかったロボット支援下手術や単孔式肺切除術も導入することができるようになりましたので、現在新しいことにチャレンジすべく、準備を進めているところでございます。

今後とも道北医療圏の外科診療に貢献できますよう一層励んで参りますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



医療法人徳洲会 札幌東徳洲会病院

外科主任部長 萩原 正弘

当院は昭和61年2月に開設されました。札幌市東区にある徳洲会系列の病院です。

伏古、札幌北インターから約5分の好立地にあります。

地上8階、地下1階、病床数325床（ICU10床、HCU12床、CCU4床、EHCU4床）ですが、今年度中に11床増床予定となっています。また現在、病院を一部改築中であり2024年度には道内初の

Hybrid ER（患者の移動なしに初期治療、CT検査、動脈塞栓術、ダメージコントロール手術が可能となり、診断と治療という2つのプロセスが1箇所で行える初療室のこと：HERS研究会 代表幹事挨拶より抜粋）が完成する予定です。

外科は2021年10月には常勤医が一時2人まで減ってしまうという危機的状況になりましたが、2022年1月に1人、4月からは私も含めて2人増員となり現在は計5人のスタッフで診療を行っています。私以外のスタッフの内訳ですが、北海道大学の第2外科から2人派遣、当院生え抜きの医師2人でAMUSE会員は私だけです。2021年10月から入院患者数、手術件数とも落ち込んでいましたが、スタッフの増加、近隣のクリニックや病院への挨拶回りなどで入院患者数、手術件数も増加してきて元の水準まで戻ってきています。

当院の特徴として病院の理念どおりなるべく多くの救急患者を受け入れていること、循環器内科、整形外科外傷センターの症例が多いことです。循環器科内科は道内でも有数の心臓カテーテル検査・治療件数で、TAVI（経カテーテル大動脈弁留置術）、Mitra Clip（経皮的僧帽弁カテーテル修復術治療）の症例も多いです。整形外科外傷センターは主に四肢の外傷に広く対応し、骨盤骨折の手術も行っています。当科の特徴としては腹部手術以外に日中、夕診外来での表在外傷の縫合等の処置を行い、定期手術

の多く（大腸がん、胃がん、胆石症、急性胆嚢炎、鼠経ヘルニア）は腹腔鏡で手術を行っていることです。その他に炎症性腸疾患や急性腹症の手術が多いことがあげられます。2022年度の手術症例数は例年と比べかなり少ないですが、総計499例で悪性腫瘍手術は胃9例、大腸61例、肝胆膵14例でした。炎症性腸疾患手術は25例、緊急手術は123例でした。診療体制が元に戻りスタッフが慣れてきた最近では、特に緊急手術が多く、こんなに虫垂炎や胆嚢炎などが多いのかと実感します。緊急手術では重篤な症例もあり、これらは開腹で手術を行っています。なかには心停止しても蘇生させた後に手術を行うこともあり、元気に退院していく患者様もいます。その際に重要な治療戦略としてDamage Control戦略があり、当院では積極的に行っております。治療において救急科の協力は不可欠で、放射線科のお世話になることも多々あります。最近では他診療科、コメディカルへもこれらの戦略が浸透しており、治療がスムーズに行えるようになっていきます。手術室だけではなく血管造影室や初療室で手術を行ったこともありました。Hybrid ERが完成したあかつきには、初療室での手術症例もさらに増加すると思われます。徳洲会の理念どおり引き続き札幌及び周辺地域のために外科診療を継続していきたいと思えます。今後とも何卒よろしくお願いいたします。



病院全体外観



ERスタッフステーション



ER



Hybrid ER完成予想図

2022年度 AMUSE新入会員一覧

AMUSEはこの1年間に11名の新規会員を迎え入れました。みなさんが各所で活躍しています。
新入会員は下記のようになっています。
今後ともよろしくお願い申し上げます。

※卒業年順・敬称略

入会者名	所 属	大学卒業年	入会者名	所 属	大学卒業年
鈴木 文隆	心臓外科	2018	清水 要	心臓外科	2022
白倉健太郎	心臓外科	2020	橋本 侑樹	心臓外科	2022
神野 浩史	血管外科	2020	福田 はな	心臓外科	2022
望月 伸浩	心臓外科	2020	丸岡 純	心臓外科	2022
高畠 宏規	肝胆膵・移植／消化官外科	2021	渡部 大成	肝胆膵・移植／消化官外科	2022
香川 倅二	心臓外科	2022			

心臓外科 香 川 倅 二

旭川医科大学第43期卒業、1年間の国試浪人を経て、2022年4月より八雲総合病院で初期臨床研修をさせていただいております、香川倅二と申します。医師を目指すと思った高校生の頃より外科系を志望し、大学の病院実習で心臓外科の手術を見学した際に、心臓の圧倒的な存在感と手技の繊細さに感銘を受け、紙谷先生のもとで学ばせて頂きたいと思い2020年9月に入局いたしました。その後国試浪人した際には、心臓外科研究室の補助員として様々な経験をさせて頂き、AMUSEの皆様からも励ましの言葉を頂きました。心から感謝申し上げます。

現状ですが、八雲総合病院にて麻酔科、一般外科、一般内科、小児科、産婦人科、精神科をローテし、一年を通して数多くの救急外来業務も経験いたしました。指導医の先生方や病院内のスタッフの方々からご指導頂き、できるだけ多くのことを吸収できるよう日々精進しております。

来年度は2年目研修医として旭川医科大学病院に戻り、麻酔科や外科系を中心とした研修をさせて頂く予定です。心臓外科医という目標を胸に精進して参りたいと思っております。まだまだ若輩者ですが、ご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



心臓外科 清 水 要

旭川医科大学病院初期研修医1年目の清水要と申します。愛知県にある藤田医科大学出身で、心臓大血管外科に入局しております。幼少期より父や漫画の影響で外科医に憧れがあり、単純にかっこいいということと、個人的に循環器系に興味があるという理由で心臓外科医を志すようになりました。大学6

年生の時に病院見学をさせて頂き、その場で心臓大血管外科に入局を決めました。

素晴らしい指導環境に加え、研修医の同期にも恵まれ、時折旭川の美味しい食事や地酒を嗜みつつ、充実した研修生活を過ごせております。現時点では具体的な将来像はまだありませんが、その場の流れに身を任せつつ、執刀や留学などのきたるべきチャンスに備え肅々と準備をしていく所存です。また、興味を持ったことには次々と妥協することなく挑戦していきたいと考えております。AMUSE会員の先生方におきましては、今後ともご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



心臓外科 白 倉 健太郎

卒後3年目の白倉健太郎と申します。現在は札幌東徳洲会病院の心臓血管外科にて勤務しております。

札幌東徳洲会病院心臓血管外科は症例数の割に、元々それほど人員が多くない事情もあり、専攻医1年目にして6月以降は定例手術、および緊急手術を含め、ほぼ全例前立ちとして手術に参加させていただいております。緊急手術の件数もそれなりにあり、また最先端の低侵襲な手術も多く、充実した日々を過ごせております。

より一層外科医として成長できるよう、日々精進してまいります。

至らぬ点も多々あるかと存じますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

血管外科 神 野 浩 史

卒後3年目の神野浩史と申します。出身地は富山県で、出身大学は旭川医科大学です（部活動は男子バレーボール部でした）。初期研修を製鉄記念室蘭

病院にて修了した後、現在は大学にて、血管外科を専攻させていただいております。手術や術後管理、学術活動など、何にしてもうまくできないことばかりで自身の能力や適正の無さに打ちひしがれておりますが、優しい先生方のご指導のおかげで、何とか日々を乗り越えられております。尊敬する先生方のような素晴らしい外科医になれるよう、まずは一人前の外科医になれるよう、今後も精進して参りたいと思います。あまりに未熟で皆様には大変なご迷惑をおかけしてしまい申し訳ございませんが、今後ともご指導ご鞭撻の程何卒よろしくお願い申し上げます。

（写真は血管外科同期の水島くん、横山くんと、HOPES2022にて。）



心臓外科 鈴 木 文 隆

2022年4月より旭川医科大学心臓外科でお世話になっております卒後5年目の鈴木文隆と申します。不勉強ゆえ周囲にご迷惑かけることも多々ありますが、諸先生方の手厚いご指導を



賜り充実した日々をすごさせていただいております。東京出身で、大学時代は長崎にいたため初めての雪国の生活は全てが刺激的で、通勤途中にも感じられる雄大な景色、自然に圧倒されながら少しでもこの土地に貢献できればと思う毎日です。何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

肝胆膵・移植／消化官外科 **高 畠 宏 規**

初めまして、旭川医科大学病院で初期研修をしております、高畠宏規と申します。この度、4月からAMUSEの一員として皆様と一緒に働かせていただくこととなりました。そこで、僭越ながら自己紹介をさせていただきます。出身は札幌市で、高校野球で甲子園に出場することもある札幌第一高校を卒業しました。初期研修は旭川医科大学病院で行い、内科から外科、小児科や麻酔科と幅広い診療科をローテートさせていただきました。既に研修させていただいた外科も多く、先生方のご指導のおかげで実りの多い研修となりました。学生時代より消化器領域を専門にしていこうと考えていたこともあり、消化器外科をはじめとした外科での研修で外科的手技に興味を持ったことが外科を目指すきっかけの一つになりました。一方で、外科的手技や考え方など一朝一夕では習得できない難しさも同時に実感しております。初期研修2年目の終わり頃にこの決断をしたこともあり、人一倍、日々精進していこうと考えております。医師としても未熟者ではありますが、何卒ご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



けになれる、橋本がいるなら大丈夫と思わせられる存在を目標に頑張ります。

心臓外科 **福 田 は な**

旭川医科大学研修医一年目の福田はなと申します。静岡県で生まれ育ち、大学から北海道の地に来ました。心臓外科は高校2年生の時にプロフェッショナルの流儀で存在を知り、そのかっこいい生き様に憧れて医師を目指し始めました。昨年4月にやっと研修医になることができ、毎日いろんな方々にご指導いただきながら、研修させていただいております。現場では自分の知識や技術がいかに未熟であるか突き付けられ、理想からはだいぶかけ離れた今の自分に焦りを感じておりますが、自分が思い描く強く優しくかっこいい心臓外科医になれるように、徐々に具体的な将来像を固めていきながら、めげず、たゆまず、頹れず、なんとかあがいて頑張ります。何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

心臓外科 **橋 本 侑 樹**

旭川医科大学病院初期研修医1年目の橋本侑樹と申します。旭川生まれ、旭川育ちで25年間の人生をずっと旭川と共に過ごしております。幼い頃に母親を亡くし、自分のような寂しい辛い想いをする人が1人でも少なくなるようにと思い、医師を志しました。大学生活の中で、自分の手で直接病態にアプローチできる外科医、中でも循環系をコントロールする心臓血管外科医に憧れ、心臓外科に入局させていただきました。初期研修医1年目としてわからないことばかりの中、日々学習を続けさせていただいております。日々に忙殺されることなく、自分の原点に忠実にAMUSE会員の皆様のようなかっこいい生き様を描きたいと考えております。2年目は心臓外科を中心に小児外科、呼吸器乳腺外科などをローテさせていただきます。関わる人々に迷惑をかけ、支えられながらの日々ですが、いずれその方々の助

心臓外科 丸 岡 純

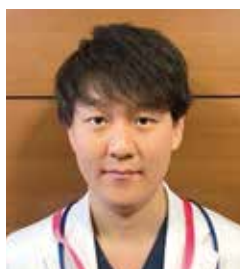
はじめまして。旭川医科大学病院1年目研修医の丸岡純と申します。私は6年生の時のアドバンス実習で心臓外科の臨床実習をさせていただいた際に、繊細かつダイナミックな手術



や紙谷教授をはじめとした先生方の日々の診療に対する情熱、人柄に惹かれ、実習2日目には入局を決めておりました。現在は旭川医科大学病院で様々な診療科をローテーションしつつ充実した研修をさせていただいております。来年度も基本的には大学病院の方で心臓外科・小児外科・呼吸器乳腺外科・血管外科など多くの科で研修させていただく予定です。未熟者ではございますが、日々精一杯精進して参ります。ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

肝胆膵・移植／消化官外科 渡 部 大 成

2022年に旭川医科大学を卒業し（44期生）、現在札幌の勤医協中央病院で初期研修をしております渡部大成と申します。簡素ではございますが、この場を借りて自己紹介させていただきます。



出身は北海道札幌市で、AO入試で2016年に旭川医科大学に入学致しました。大学時代はサッカー部とロック研究会に所属しておりましたが、今現在は草野球を趣味で行っております。小学生の時に祖父を肝臓がんで亡くした時から医師を志し、肝臓を専門とした医師になりたいと思っておりました。外科か内科で悩みましたが、アドバンス実習で第二外科を回らせていただいた際に、私と同じ理由で肝臓外科医として働いている上級医の姿に心を打たれ、迷わず第二外科に入局いたしました。

現在札幌の勤医協中央病院で研修しておりますが、北海道で1番救急車を受け入れている病院であり、救急科研修や当直は毎回学ぶことが多く充実し

ております。それ以外にも研修医の教育体制が充実しており、非常に有意義な研修生活を過ごせております。

今後は肝胆膵外科医の専門医取得、並びにAMUSEの今後の発展のために精進して参りますので、今後とも厳しい御指導・御鞭撻の程、宜しくお願いいたします。

心臓外科 望 月 伸 浩

旭川医科大学第一外科に入局しました望月と申します。

出身は日本医科大学で、大学時代はバレー部に所属しておりました。

今思い介しても学生時代の思い出はバレーボールのことばかりです。

研修医の頃に心臓外科竹吉先生に紹介して頂き、心臓外科に見学に伺い、そのまま気がついたら入局の運びとなっていました。

率直な話、勢いで出身の埼玉から大分離れた土地の大学医局に入ってしまったのですが、紙谷教授をはじめ諸先生方から丁寧な御指導を頂き、日常診療に励んでいます。

大学に勤務してから幾月が過ぎ、少しずつ仕事にも慣れてはきましたが、手術に入るたびに勉強不足を実感する毎日です。

日常診療の負担が慣れもあって軽減されてきたので、今後は手術や技術の習得に一層励むことができれと思っています。

手術がかっこいいと思って心臓外科に入ったので、その初心を忘れず努力を続けていく所存です。

北海道、特に旭川の冬は大変厳しく、今までは関東での生活がほとんどだったため、そもそも雪が降るということに慣れておらず、先が思いやられますが院内は暖房が効いており過ごしやすいため、より一層仕事に邁進し、院内にいる時間を増やしていければと考えております。

末筆ではございますが今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

編集後記

今号も、AMUSE年報をお読みいただきありがとうございます。

今回は、新たにAMUSE法人会員となった札幌東徳洲会病院へ、この春外科主任部長として就任された萩原正弘先生に病院の紹介をいただいています。就任早々に着手されたHybrid ER立ち上げの背景や目的などを紹介していただきました。ぜひご覧ください。

また、今号では、AMUSE新規入会の先生方の自己紹介も掲載してあります。人柄を知る貴重な自己紹介となっておりますので、こちらもぜひご覧ください。

さて、早いものでもう5月となりました。新年度が始まってから1ヶ月が経ちましたが、皆様は新しい環境や仕事に慣れましたでしょうか。私は、昨年度からAMUSE幹事となり、今回AMUSE年報の編集という重大な仕事をさせていただきました。

AMUSE理事・幹事の皆様をはじめ、各講座の先生、秘書の皆様、そしてAMUSE事務局の皆様のおかげで無事発刊することができうれしく思います。

最後に皆様のご健康をお祈り申し上げ、編集後記とさせていただきます。

(文責：北 健吾)

AMUSE年報 vol.7

発行

2023年5月28日

編集

一般社団法人 AMUSE

(旭川医科大学外科学講座教育支援機構)

印刷

植平印刷株式会社